

## 井田火山の地質

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 増田, 千鶴子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00006068">https://doi.org/10.14945/00006068</a>

# 井田火山の地質

増田千鶴子\*

卒業研究として達磨火山の地質を調査したが、その北西部にある井田火山の地質について概要を報告する。

本火山については沢村孝之助氏の調査報告があり、<sup>(2)(3)</sup>ここでは氏の命名された岩層名を用いる。

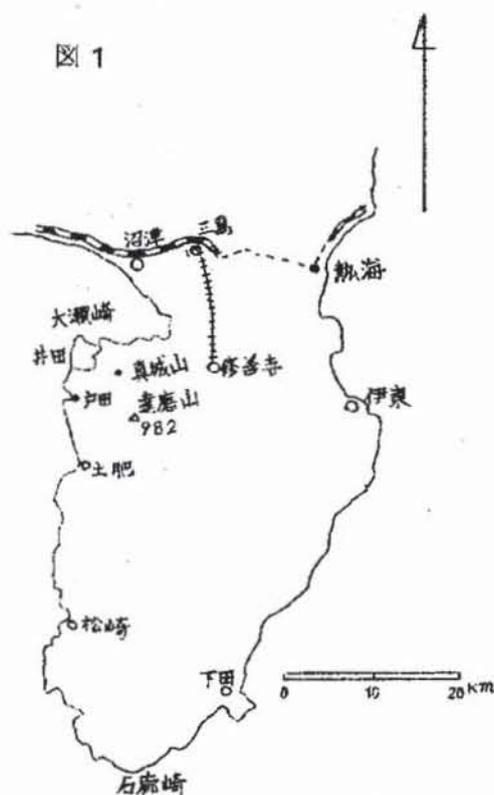
井田火山は伊豆半島の北西端にあり(図1)その北及び西側は約200mの海蝕崖となつて駿河湾に没する。最高点は真城山北方にあり海拔450m、それから北東方へなだらかな山腹を駆け、西方井田部落に向つては急傾斜をなしている。

本火山は明瞭な成層火山で熔岩と火山碎屑物との互層から成り、2m前後の厚さの熔岩層と抛出物層が規則正しく累重する。この互層は火山の北半分では走向N30°Wを示すことが多く、傾斜は大瀬崎海岸附近では45°E、井田海岸附近では15°Eと南するにしたがつて緩傾斜となっている。このような成層の状態から噴出の中心は現在の井田部落西方の海中に存在したものと推定される。(図2)

真城山附近の本火山噴出物層の露頭に南北性の断層が多数認められるが附近の達磨山の噴出物にはそれがなく、又達磨山熔岩の上に本火山の火山碎屑物がまったく存在しないこと等から直接の被覆関係は見出されなかったが、本火山が達磨火山よりも古期の噴出に属することは確実である。

真城山北方の真城池について、石原初太郎氏<sup>①</sup>は達磨火山の寄生火山の噴出口であると報告している。確かに附近には井田火山の噴出物が分布しているが、その分布及び堆積の状態から見ると、真城池を噴火口とする理由は見出されない。この附近の井田火山噴出物は南北性の断層でこまかく切られ、又かなり激しく侵蝕を受けている。このような点から真城池は侵蝕に

\*教育学部四年

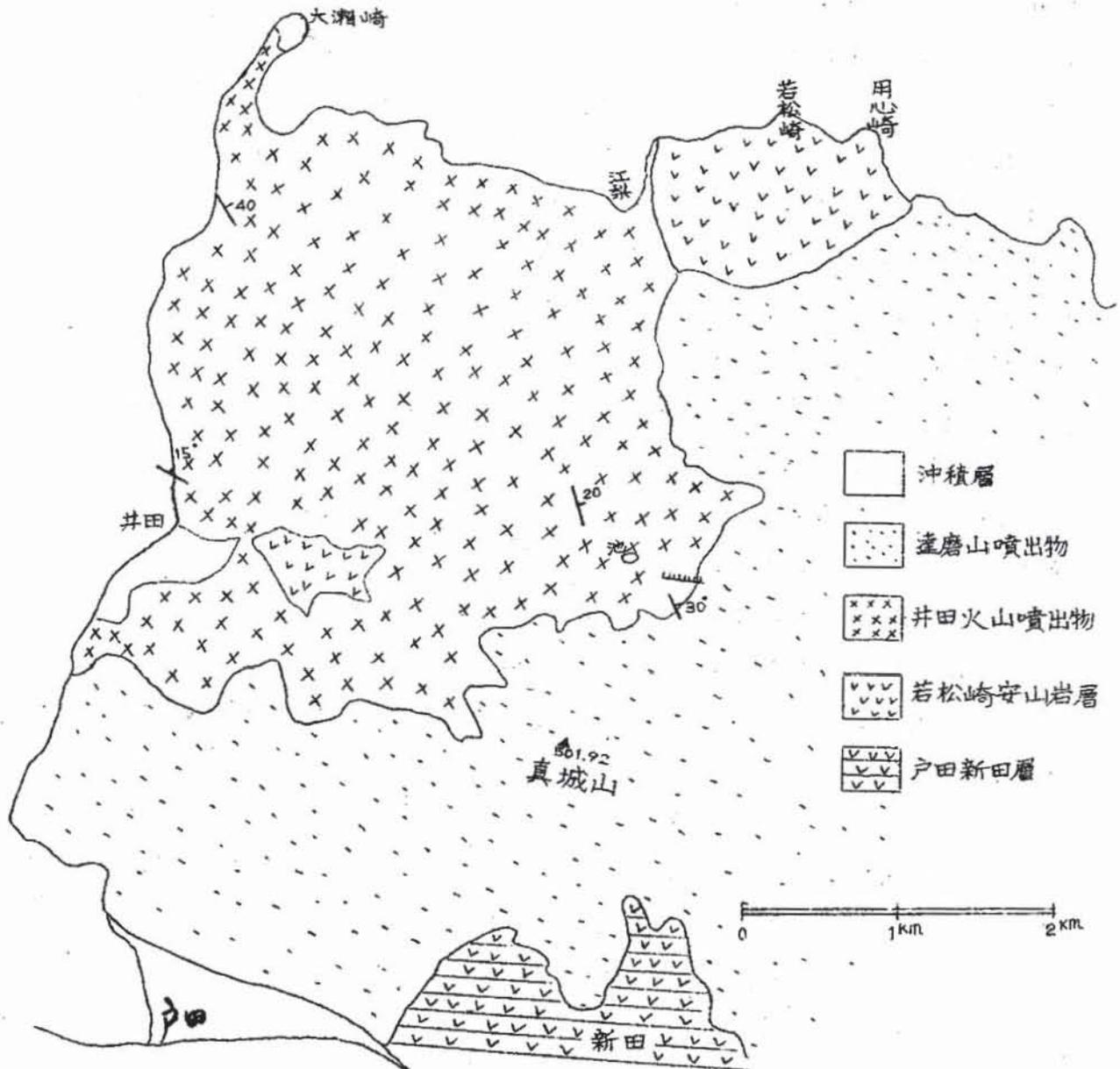


起因する凹地と考えられる。戸田新田附近の開析された達磨山火口内には井田火山噴出物は認められず、湯ヶ島層が広く露出していることが判明した。この点については達磨山の地質について別の報告で詳論する。

井田火山熔岩はオリブ石普通輝石玄武岩・オリブ石復輝石安山岩質玄武岩である。

オリブ石普通輝石玄武岩は江梨東方2kmに露出するもので、斜長石の径2mm以上の斑晶を点在させる過斑晶質な熔岩で、顕微鏡下では粗面岩質組織

図2 井田火山地質図



を示し石基に有色鉱物が多い。斑晶はオリブ石・普通輝石・曹灰長石で、石基はオリブ石・普通輝石・中性長石・磁鉄鉱及び火山ガラスより成る。

オリブ石復輝石安山岩質玄武岩は大瀬崎～井田間の海岸に露出する。多数の輝石斑晶をゴマのように点在させオリブ石斑晶も含まれている。灰白色の岩石で板状節理を示している。斑晶は曹灰長石・オリブ石・紫蘇輝石及び普通輝石で、石基はオリブ石・普通輝石・火山ガラスより成る。

熔岩は塩基性でほとんどがオリブ石を斑晶として持ち、その石基輝石は単斜輝石である。若松崎安山岩・達磨火山熔岩は石基に斜方輝石を持つので区別することは容易である。

井田火山の基盤と推定される湯ヶ島層群は本火山の噴出分布地域内には見出されないが、戸田新田の達磨火山火口内には露出している。鮮新世末の噴出と考えられる若松崎安山岩層が本火山の基盤として若松崎に約100mの高度まで露出している。又この安山岩と同種のものが井田部落東方にも現れている。若松崎安山岩層は無斑晶質緻密な黒灰色の安山岩で板状節理を示す。

井田火山は第四紀初頭、鮮新世末の噴出と考えられる若松崎安山岩を覆って噴出した玄武岩質の成層火山で、その噴出の中心は現在の井田西方の海中に存在した。構成岩石はオリブ石普通輝石玄武岩・オリブ石復輝石安山岩質玄武岩である。本火山形成後東南方に噴出中心を持つ達磨火山が噴出した。

終りにこの調査を指導して下さい下さった鮫島助教授に深く感謝致します。

#### 参 考 文 献

- (1) 石原初太郎 震災予防調査会報告第17号 1898年
- (2) 沢村孝之助 7.5万分の1沼津地質図幅及び説明書 1953年
- (3) 沢村孝之助 5万分の1修善寺地質図幅及び説明書 1955年